

「宿屋には彼らのいる場所がなかった」

ルカの福音書 2章1節～7節

はじめに

クリスマスのお話でだれでも知っていることがあります。それはイエス様が馬小屋でお生まれになったことです。

では、なぜ、馬小屋でお生まれになったのでしょうか。

ヨセフとマリヤは、住んでいたナザレからベツレヘムに旅をしていて、ベツレヘムでは泊まる所を捜さなくてはなりません。ところが「宿屋には彼らのいる場所がなかった」のです。そして馬小屋で、子どもを産むことになりました。この出来事は、私たちに何を告げ、何を教えているのでしょうか。

中心聖句「マリヤは月が満ちて、男の子を産んだ。それで布にくるんで飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである」(7)

1 ベツレヘムでの御子の誕生。

ヨセフとマリヤは、住んでいたナザレからベツレヘムに来ました。では、どうしてベツレヘムに来たのでしょうか。

(1) 旧約聖書の預言(ミカ 5:2)。

旧約聖書には、救い主(メシヤ)が来ることが預言されていました。そして、その場所はベツレヘムと言われていたのです。紀元前742年から686年頃に活躍した預言者ミカは、こう預言しています。「ベツレヘム・エフラテよ。あなたはユダの氏族の中であまりにも小さい。だが、あなたからわたしのために、イスラエルを治める者が出る。その出現は昔から、永遠の昔からの定まっている」(ミカ 5:2)。

東の国から博士たちが新しい王の誕生を祝いにエルサレムに来たとき、当時の祭司長たちや学者たちは、「ユダのベツレヘム」と答えています。メシヤは、ベツレヘムから出ることは、旧約聖書によって知られていたのです。

適用：旧約聖書の結論は、人間にとって救い主が必要であるということです。人間は神に背き、神に罪を犯しました。その結果、神の祝福を完全には受けられず、永遠のいのちはなく、滅んでいかねばなりません。律法も人を救うことはできません。救い主が必要であり、神はその救い主をお遣わしになると約束されました。旧約聖書は、救い主についての預言で溢れています。その一つがミカによるベツレヘムで出現するというものだったのです。

(2) 預言は、ローマ皇帝の勅令によって実現した。

「そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストゥスから出た」とあり、「それで、人々はみな、登録のために、それぞれ自分の町に向かって行った」のです。

(3) ヨセフとマリヤは、勅令に従い、ベツレヘムに行った。

ヨセフにとっての「自分の町」はベツレヘムだったのです。ベツレヘムは、ダビデ王の故郷であり、ヨセフはダビデの家系でしたので、登録のためにベツレヘ

ムに行かねばなりませんでした。ナザレからベツレヘムまでは 100 キロ以上あり、山道もあったので、二人にとってつらい旅であったでしょう。

結論：聖書の預言は、真の神を知らないローマ皇帝の勅令によって実現しました。皇帝は、メシヤの出現などまったく意に介しなかったでしょう。しかし、神はその時のローマの皇帝をお用いになり、聖書の預言を実現なさいました。そして、ヨセフとマリヤはそれに従うことによって、ベツレヘムに行き、丁度そこでマリヤは救い主を産んだのです。一ヶ月早くても、遅くても預言の実現とはならなかったでしょう。神様の導きとしか言いようがありません。

2 宿屋には彼らのいる場所がなかったのである。

それにしても、馬小屋での出産は、なぜだったのでしょうか。神は、どうしてそのような出産をお許しになったのでしょうか。

(1) 布にくるんで飼葉おけに寝かせた。

飼葉おけに寝かせたことから、「馬小屋」という話になりました。羊か牛のいる場所での出産したのです。これは、普通の人にはあり得ない、最低の条件の中でお生まれになったということです。「この布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりご」こそ救い主のしるしなのです（12 節）。

それは、神の御子が貧しくなられたこと。この世のだれも経験しないような貧しさと困難を自ら経験されたことを示しています。これが「私たちの救い主」なのです。

適用：イエス様は、神の御子であり、王になるべき方ですので、立派な王宮に生まれることも可能でした。しかし、そうはなさらなかった。「布にくるまって飼葉おけに寝ておられる」姿こそ、救い主のしるしなのです。

聖書はこう言っています。「あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです」（Ⅱコリ 8:9）。

(2) 宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。

ヨセフとマリヤは、自分からこの場所を選んだのではありません。生まれて来る子がどんな方かを知っていた二人は、けっしてこのような場所を願うことはなかったはずですが、しかし、そうせざるを得なかった。それは「宿屋には彼らのいる場所がなかったからである」と記されています。

馬小屋での誕生は、直接的には人々の無知と拒絶でした。人々は、ヨセフとマリヤのことを知りません。自分たちのことしか考えません。マリヤが臨月を迎えていることが分かっているにもかかわらず、だれも宿を譲ろうとはしなかったのです。誰一人「私たちの宿をお使いください」という人はいませんでした。人間の自分中心的な思いが馬小屋での誕生の原因でした。

適用：ところで、私たちはどうでしょう。イエス様を受け入れる用意があるでしょうか。どうぞ、お入りくださいと言えるでしょうか。それとも、「困ります。あっちへ行ってください」と言うでしょうか。

香川県にいたとき、ある御夫妻が私たちの家に一泊されました。奥様が「二階

も見せてください」と言って、どんどん二階へあがって行かれました。二階は、私たちの寝室になっています。別に覗かれてもいいのですが、ちゃんと片づいているか心配でした。覗かれないという気持ちがあります。あなたはどうか。神様の前にすべてを見せますか。あなたの私生活のどこに入って来てもいいですか。あなたの家には「イエス様のいる場所」はありますか。

(3) 最後は十字架へ。

救い主のしるしは、「布にくるまって飼葉おけにねておられる」ことでした。そして、その最後は「十字架の死」です。それは、「犯罪人と同じ刑を受けている姿」です。そしてこれが私たちの救い主のしるしなのです。

私たちの救い主は、私たちのために貧しくなり、私たちと同じ苦しみを経験し、そして最後は、私たちの身代わりとなって十字架にかかり、死んでくださいました。ですから、私たちは、この方によって救われるのです。

聖書はこう言っています。「キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人間としての姿を持って現れ、自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました」(ピ 牝 2:6-8)

適用：芸術家たちがたむろす所で有名なニューヨークのグリニッチ・ヴィリッジに、スーとジョンズィという若い二人の画家の卵が住んでいました。ある時、「肺炎」が流行し、多くの人が死んでいきました。ジョンズィも肺炎にかかってしまいました。ある日、医者がスーを呼んで言いました。「良くなる確率は十に一つだ。その一つは、彼女の、生きたいという気持ちだ。彼女は自分はまだだと思っているようだが、彼女の望みは何かね」「いつかナポリ湾を描きたいと言っているわ」。「絵か。そんなものじゃなくて、男とか、着るものとか、そんな願いはないのかね」。

ジョンズィの声がするので、スーが行ってみると、「12・・・11・・・10・・・9・・・8・・・7・・・」と、彼女は何かを数えています。窓を覗くと、向かいの建物に、ツタがはっています。

「この前まで 100 枚ほどあったのに、もう 6 枚になっちゃた。また落ちた。あと 5 枚。最後の一枚が落ちるとき、私も死ぬの」。スーは言いました。「馬鹿なこと言わないで。つたの葉とあなたのいのちと何の関係があるの。」

彼女たちの下の階に、年取ったバーマンという画家が住んでいました。売れない画家でした。「いつか傑作を描く」と言い続けていましたが、今は画家の卵たちのモデルになって、いくらかの小遣いをかせいでいました。スーは、バーマンにジョンズィのことを話しました。彼は「何と馬鹿げたことか」と言いました。

その晩、小雪混じりの雨が降り、風も吹きました。翌朝、ジョンズィはスーに、ブラインドを開けてくれるように言いました。スーがおそるおそる明けてみると、たたきつけるような昨夜の風雨にもかかわらず、一枚だけつたの葉が残っていました。最後の一枚でした。じっとその一枚の葉を見ていたジョンズィが口を開きました。「馬鹿だったわ。あの一枚を見て、自分の愚かさが分かったの。死ぬなんて、とんでもないことよ。・・・私いつかきっとナポリ湾を描いてみせるわ」。

午後になって医者が来て、階下のバーマンが肺炎にかかったと、教えてくれました。「年をとっているの、望みは薄い。とりあえず、入院させる」と言って帰っていきました。次の日も医者が来て、「ジョンズィはもう心配ない。君の看護のおかげだよ」と言って帰りました。スーはジョンズィのところに来て、こう言いました。「バーマンが今日病院でなくなったわ。二日患っただけで。掃除人のおじさんが見つけたとき、バーマンは靴も洋服もずぶ濡れだったんですって。

あんなどしゃぶりの晩に、どこに行ってたんでしょね。それから傍らに、火の入ったランプと、梯子と、筆と、緑と黄色の絵の具をこねたパレットがあったそうよ……。ねえ。ジョンズィ。おかしいと思わなかった。あの最後の一枚。あんな風雨にも落ちなかったなんて。あれはバーマンの描いた絵だったのよ。バーマンは最後の葉が落ちたあの晩、あそこにあの葉を描いたの。あれこそ、バーマンの傑作なのよ」。

これは、O・ヘンリーの「THE LAST LEAF」という短編小説の要約です。バーマンは、自分を犠牲にしてジョンズィを救いました。イエス様は、ご自分を十字架で犠牲にして、私やあなたを救おうとなさったのです。

結論

神様は、私たちが罪から救うために、神の御子をこの世に遣わしてくださいました。マリヤは、その御子を産む器として選ばれたのです。そして、マリヤはそれに応えました。そして、御子はお生まれになったのです。そして御子は、私たちに神の事をお示しになり、最後は私たちの罪を負って十字架で死に、三日目に復活し、天にお帰りになり、別の助け主として聖霊をおくってくださいました。いま、私たちは罪から救われるのです。

私たちは何を求められているでしょうか。

- 1 イエス・キリストを救い主として信じ、受け入れること。
- 2 聖霊に信頼し、聖霊に満たされて、主にことばのままに歩むこと。

招きのことば

イエス様は、あなたの罪を赦すために、十字架におかかりになりました。あなたの罪を赦し、あなたが天国に行けるようになってほしいのです。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」（Iヨハ4:10）

「見よ。わたしは戸のそとにたって叩く。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」（黙示録 3:20）

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」（使徒 16:31）

祈り

父なる神様。あなたの御子イエス・キリストを感謝します。

私はあなたに罪を犯して来ました。地獄に投げ込まれても当然な人間です。

しかし、イエス様は、私の罪のために十字架にかかり、私のために死んでくださいました。

あなたは、私のすべての罪を赦してくださいました。感謝します。

私は、いま、イエス・キリストを私の救い主、私の神として信じ、受け入れます。

あなたは、私をあなたの子として受け入れてくださり、私を新しく生まれさせてくださることを感謝します。

今日からあなたに従っていきます。どうぞ、弱い私を導いてください。

イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。